

2年 現代文B 休業中課題 (五月一八日版)

① 「意味から学ぶ常用漢字」準2級、第51回、52回(114ページ～117ページ)をテキストに書き込む。

② 教科書20～32ページ「山月記」を読み、「学習プリント②補足」に取り組んだうえで、

四月二〇日版で配信済みの「学習プリント②」【課題1】、【課題2】一つ目の空欄に取り組む。

○②については、A4用紙にプリントアウト(印刷)したものに書き込み、四月二〇日分とあわせて提出する。クラス(・番号)(・氏名)を必ず明記する(こと)。

(翌週以降も補足プリントを追加していく予定なので、ホチキス止めは後でかまいません)

○提出方法・提出日については未定。指示があり次第提出できるように準備しておくこと。

○学習プリント②【課題2】が難しいと感じた人は、この補足プリントに取り組んでみましょう。
空欄は、教科書本文の抜き出して埋まるようになっていきます。同じ記号には同じ語が入ります。
ここではプリント②【課題2】の3枠ごとに、内容を丁寧に整理します。☆が【課題2】の解答ポイントです。

〔場面1〕 虎になった直後の李徴

・宿から自分を呼ぶ声応じて出て、気づいたら手も使って駆け、岩石を飛び越え、毛が生えて虎になっていた。

←

・水面に映る自分の姿を見て〔A

〕だと思いが、〔A

〕ではないと悟って茫然とした。

〔B

〕と深く懼れた。(恐怖)

←

☆虎になった原因や理由に〔C 思い当たる／思い当たらない 〕(本文にあう方に○)

…「生き物のさだめ」とは、

D

こと。

↓自分の人生が理想のようにならない「*不条理」のひとつと認識する。

*不条理…実存主義の用語で、人生に意義を見いだすことのできない絶望的な状況を言う語。

フランスの小説家カミュに用いられた。

←

・「人間」の李徴と「虎」の李徴

「人間」の李徴の時…〔E

〕を思う。複雑な思考ができ、経書もそらんずることが可能。

「虎」の李徴の時…語るに忍びない虎としての〔F

〕をしてきた。

最初は〔G 〕だが、噂が確かなら人間も襲った…?

「人間」と「虎」を歩き来し、「人間」の時は、運命を振り返り、情けなく、恐ろしく憤ろしくなる。

↓〔H

〕時間が日に日に短くなる⇒だんだん心も〔I

〕に近づいている。

〕「どうして虎などになったか」から「どうして以前、人間だったのか」へ

←

・〔I 〕に近づく李徴の恐怖…人間の心や〔J

〕を忘れることが恐ろしい。

人間の心が消えた方が「しあわせ」とは、さだめへの嘆きや後悔がない〔K 人間／虎 〕としての幸せ。

「しあわせ」といいながら、恐ろしく、悲しく、切ないと揺れ動く思い。

←

・李徴の気持ちは〔L 誰にでもわかる／誰にもわからない 〕と、気持ちを語りながら、

共感や理解を〔M あきらめない／あきらめる 〕。

←

・ひととおり語り、一つ頼みごとをする。

N 頼みごとの内容

〔1〕 〔 〕を目指していた自分には、〔2〕 まだ覚えている／新たに作った 〕詩がある。

詩=〔3〕

もの〔 〕を記録として残してほしい。

↓詩への執着と、記憶の一部である自作の詩の消滅を恐れていることの表れ。